



COLUMN

表紙：

上田工場

1954年

1950年代、日本の電子工業は発展を続けており、1951年にラジオの民間放送、1953年にテレビ放送が開始され、多くの放送局が開局しました。

ラジオ、テレビの時代は電電公社（日本電信電話公社、現在のNTTグループの前身）のマイクロ波通信網の建設に先導されて黎明期を迎えます。通信機会社をはじめ、社会は好景気となり、1950年から1953年にかけて消費景気が訪れました。

同時期に、上田工場では手廻発電機や無線機電源などの受注が活発になり、生産は多忙を極めました。手廻発電機は海難時のライフボートに装備する緊急無線通信用の手動電源としてのニーズがあり、後に装備が法令化された製品でしたが、その需要のほとんどを当社が占めました。

可搬式のガソリン機関発電機（ガソリンエンジン・ジェネレーター）も防衛庁から受注していました。これは無線通信機をトレーラーなどで運び、通信をおこなう場合の電源として使われました。

こうした大型の受注に加え、従来からの船舶用各種無線電源や魚群探知機用コンバータも好調だったため、上田工場の生産繁忙は1950年後期も続き、業績は伸び続けました。